

フェニックス～長岡花火への思い～

情報サービス部
佐藤 明子

AKIKO SATO

私は夏が本当に苦手である。しかし、故郷の長岡花火大会の日だけは特別だ。この瞬間だけは、夏の暑さを忘れ、故郷の空に広がる美しさに心を奪われる。

長岡まつりの起源は、1945年の長岡空襲の犠牲者への慰霊と復興を祈念する「長岡復興祭」だ。その思いが受け継がれ、8月2日・3日の長岡花火大会は日本三大花火大会の一つとして全国に誇れるイベントとなった。毎年、開催に合わせて帰省し、家族とともに夜空に咲く大輪の花火を見上げるのが、私にとって欠かせない夏の風物詩である。静寂を破る轟音とともに広がる色鮮やかな光の芸術は、過去の悲しみを乗り越え、未来への希望を象徴しているようだ。特に、2005年から始まった「フェニックス」花火は歌手・平原綾香さんの「Jupiter」の旋律とともに夜空に広がり、その壮大な輝きは、復興への願いを込めたものでもあり、私の心を強く揺さぶる。

去年は初めて娘も花火大会に参加したが、昼

間興奮しすぎて本番はすっかり寝入ってしまった。今年こそ、夜空に花開く光の芸術を家族そろって味わいたい。

花火が終わり会場を後にする頃には、会場のゲート付近に大量のゴミが山盛りに置かれており、夢のようなひとときから現実に戻されてしまう。ただ、次の日にはすっかりきれいに片づけられている。JW センター職員として、その後のゴミ処理についても語りたいところだが、また今度の機会にしたいと思う。



編集後記

本号巻頭の「事業報告」では、JW センター事業の柱となる、電子Manifesto事業、教育研修事業の実績及び計画を掲載しています。第五次循環型社会推進基本計画では、今後の電子Manifesto普及状況の指標を「産業廃棄物委託処理量に対する電子Manifestoの捕捉率」とし、2030年度に捕捉率を75%とすることを目標にしています。

「調査報告」では、業種別事例集の調査結果から、日本の主要産業である自動車関連産業の排出事業者における産業廃棄物適正処理等の取組みのポイントについて取りまとめ掲載しています。

「コラム」では、日本の女性活躍推進に向けた動向を紹介いただいています。ミダックグループでは、制度導入や体制整備により女性が活躍できる職場づくりを推進し、多様な視点と独自性の創出を期待しているとのことです。

「連載講義」では、建設分野における鉱物系廃棄物・副産物の

資源循環の日欧の枠組みと、日本の制度概況の解説、今後に向けた標準化、プラットフォーム構築の提案をされています。

「欧州の最新動向」では、第2回はオランダ・アムステルフェーン市を例にオランダのごみ制度、市民文化が支える資源循環の状況を紹介いただいています。

「産廃鼎談」の第14回は連載講義のご執筆者でもある、大迫政浩様をお迎えしています。国立環境研究所にて資源循環分野、災害環境分野を長く研究され、また政府審議会や委員会の委員も務められています。鼎談では、北村先生、佐藤先生と様々なテーマをもって、資源循環・廃棄物管理の今後についてお話しいただきました。

最後に、ご多忙の中ご執筆いただいた皆様、記事作成にあたり編集にご協力いただいた皆様、本誌を読んでいただいた方々に心から感謝申し上げます。(広報室)

■本誌に関する連絡先：総務部広報室 (e-mail: jigyo@jwnet.or.jp)

<アンケートへのご協力のおお願い>

より充実した誌面作りのために、本誌の記事内容等に関する読者アンケートを当センターホームページ(以下のURL)に掲載しています。

本誌に関するご意見、ご要望を是非、お聞かせください。

URL https://www.jwnet.or.jp/info/kikansi/kikansi_anq/index.html

JW センター情報(季刊) VOL.25 NO.2

発行日：2025年7月15日発行 発行人：関庄一郎

発行所：公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター

〒110-0005 東京都台東区上野三丁目24番6号
上野フロンティアタワー13階

TEL: 03-5807-5911 FAX: 03-5807-5912

<https://www.jwnet.or.jp/>

デザイン・印刷：株式会社太陽美術